





# 悔しい8強 走り抜くハンド実らず

ハンドボール部  
男子

全日本学生ハンドボール選手権大会／日本ハンドボール選手権大会

ハンドボール部男子は11月の全日本インカレ準々決勝で敗れ、ベスト8。3大会ぶりに準決勝進出を逃した。12月の日本選手権は2回戦で敗れ、ベスト16だった。

インカレは1回戦で立教大学を45-27、2回戦で早稲田大学を41-37で降し、準々決勝では関西学院に敗れた。

本学は橋本監督（体育学部3年、大阪体育大学浪商高校）が5得点を挙げたが、27-34（前半11-15）で敗れた。今季は西日本インカレ準決勝で関西学院に敗れた。

橋本監督は退任後、日本選手権で優勝したリーグH・フルサヤ鹿島島の監督に就任。大阪体育大学ハンドボール部女子でアドバイザーを務める。また、吉本（はるの）コーチが後任の監督に就任する。

2021年秋から2024年4月のパリ五輪世界最終予選まで、女子日本代表「おひめJAPAN」の監督を務めた。

吉本氏は大阪体育大学ハンドボール部男子出身。大学4年だった2016年11月から大阪体育大学浪商中学ハンドボール部コーチとしてチームを指揮し、2023年の春の全国中学生ハンドボール選手権大会、全国中学校ハンドボール大会を全国大会で4回優勝。2025年4月から大学ハンドボール部女子コーチに就任した。

日本選手権は、1回戦で高岡向陵高校に快勝した後、2回戦でリーグHのアラマツインカレを28-24、準々決勝でイヌミメイプルレス広島を28-25で降し、準決勝でベンチ入りメンバー15人のうち6人が卒業生のハニヒト石川と対戦。健闘したが、コナ

クトの激しいリーグH勢との連戦で体力の消耗も激しく、28-25で敗れた。

橋本監督は退任にあたり、「大学の16年間でいい選手と出会い12連覇も達成できたが、前年と同じような方をした

退任する橋本繁生監督

ハンドボール部  
女子

# 橋本監督退任、後任に吉本氏 ラスト采配の日本選手権は4強

ハンドボール部女子の橋本繁生監督が1月末で退任することが決まった。最後の公式戦となった第77回日本ハンドボール選手権大会（広島市）では、リーグH勢を連破し、3年連続でベスト4に進出した。



吉本監督

橋本監督は退任後、日本選手権で優勝したリーグH・フルサヤ鹿島島の監督に就任。大阪体育大学ハンドボール部女子でアドバイザーを務める。また、吉本（はるの）コーチが後任の監督に就任する。

2021年秋から2024年4月のパリ五輪世界最終予選まで、女子日本代表「おひめJAPAN」の監督を務めた。

吉本氏は大阪体育大学ハンドボール部男子出身。大学4年だった2016年11月から大阪体育大学浪商中学ハンドボール部コーチとしてチームを指揮し、2023年の春の全国中学生ハンドボール選手権大会、全国中学校ハンドボール大会を全国大会で4回優勝。2025年4月から大学ハンドボール部女子コーチに就任した。

日本選手権は、1回戦で高岡向陵高校に快勝した後、2回戦でリーグHのアラマツインカレを28-24、準々決勝でイヌミメイプルレス広島を28-25で降し、準決勝でベンチ入りメンバー15人のうち6人が卒業生のハニヒト石川と対戦。健闘したが、コナ

クトの激しいリーグH勢との連戦で体力の消耗も激しく、28-25で敗れた。

橋本監督は退任にあたり、「大学の16年間でいい選手と出会い12連覇も達成できたが、前年と同じような方をした



小川美希（体育3年、四天王寺）



奥山彩（体育4年、大阪四天王寺）



堀洗志郎（体育3年、高知中央）



下川陽向（体育4年、大阪体育大学浪商）



武田瑞星（体育3年、香川中央）



村山健輝（体育4年、沖繩・那覇）



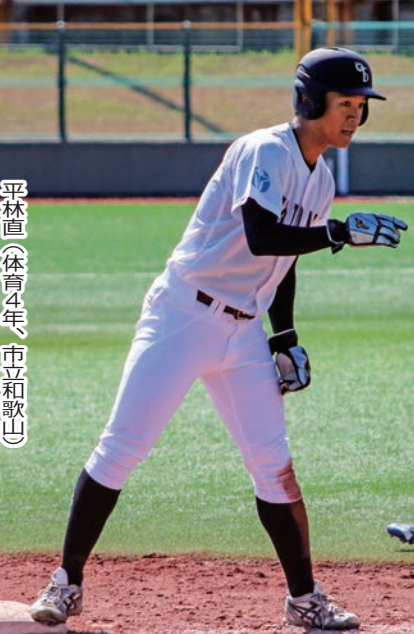
北陸太（体育3年、兵庫・須磨開風）



高田謙（体育4年、兵庫・社）



福地雄（体育4年、埼玉・昌平）



平林直（体育4年、市立和歌山）

# 悔しい5位 地力活かせず

硬式野球部  
男子

硬式野球部男子は阪神大学秋季リーグで春から1つ順位を下げ、4勝6敗で5位と悔しい結果に終わった。

苦戦の原因は打撃。春の主力が引退した影響もあり、特に4番が固定には至らなかった。一方、投手陣は本格派のエース高田純誠（体育学部3年、兵庫・報徳学園高校）が春以降、制球力が向上。球威のある中野陽生（体育学部3年、大阪体育大学浪商高校）と2人で先発を務めた。

リーグ戦は、初戦は3-0で快勝したが、以後は下位と戦った相手3連敗。リーグ戦10試合で5勝5敗で順位が固定された。一方、優勝した大阪産業大学、2位の天理大学から優勝を挙げたのは、両大学を除く天理大学。地方はある程度、1つによる敗戦が痛かった。

また、リーグ戦に出場して

来季に向け、投手陣は、高田に続く先発の座を秋に先発した中野のほかに日浦颯斗（はるの）と、スポーツ科学部2年、兵庫・神戸第一高校、福富龍之介（同、金光大阪高校）、渡邊陽輝（はるの、同大阪・履正社高校）らが争う。野手は秋連続ベストナインで打力が高い齋藤智也（体育学部4年、岡山・玉野光南高校）が抜ける穴を小川（ひかる）が教育2年、大阪・履正社高校、打球速度が際立つ神永悠希（スポーツ科学部1年、栃木・佐野日本大学高校）らが埋めることができる。

新主将は2022年夏の甲子園で優勝した山口・下関国際高校で主将だった山下世虎（せご、体育学部3年）が務める。松平・産監督は就任の年目となる来季こそ全国を狙いたい」と話す。

阪神大学野球秋季リーグ

高田謙（体育3年、兵庫・報徳学園）



に指導している点が特長だ。浜上監督は次年度に向けて「部員全員の自己ベスト更新を旨指したい」。きめ細やかにしなやかに、今シーズンの上げ潮ムードを次年度につなげていく。







BFA女子野球アジアカップ

第4回BFA女子野球アジアカップが10月、中国・杭州で行われ、日本が4連覇を果たした。侍ジャパン女子日本代表はオール大学生で編成され、大阪体育大学から最多の5人が出場し、日本代表をけん引した。

硬式野球部女子



侍ジャパンに最多5人アジアカップ4連覇

日本代表に加わったのは、エースの柏崎和(かきさき)・崎和(かしわ)・崎和(かしわ)・崎和(かしわ)・崎和(かしわ)の5人。侍ジャパン女子日本代表はオール大学生で編成され、大阪体育大学から最多の5人が出場し、日本代表をけん引した。



柏崎和(体育4年、福井工業大学附属福井) 崎和(体育4年、福井工業大学附属福井) 崎和(体育4年、福井工業大学附属福井) 崎和(体育4年、福井工業大学附属福井) 崎和(体育4年、福井工業大学附属福井)

無念のインカレ4強 全日本ではクラブ王者倒す

硬式野球部女子は、8月の全日本インカレでは準決勝でIPU環太平洋大学との延長八回タイブレークの末、3-4で敗戦。明治神宮野球場で初開催される決勝への進出を果たせず、横井光治監督は「後悔しかない」と悔やむ。



硬式野球部女子は、8月の全日本インカレでは準決勝でIPU環太平洋大学との延長八回タイブレークの末、3-4で敗戦。明治神宮野球場で初開催される決勝への進出を果たせず、横井光治監督は「後悔しかない」と悔やむ。

硬式野球部女子は、8月の全日本インカレでは準決勝でIPU環太平洋大学との延長八回タイブレークの末、3-4で敗戦。明治神宮野球場で初開催される決勝への進出を果たせず、横井光治監督は「後悔しかない」と悔やむ。

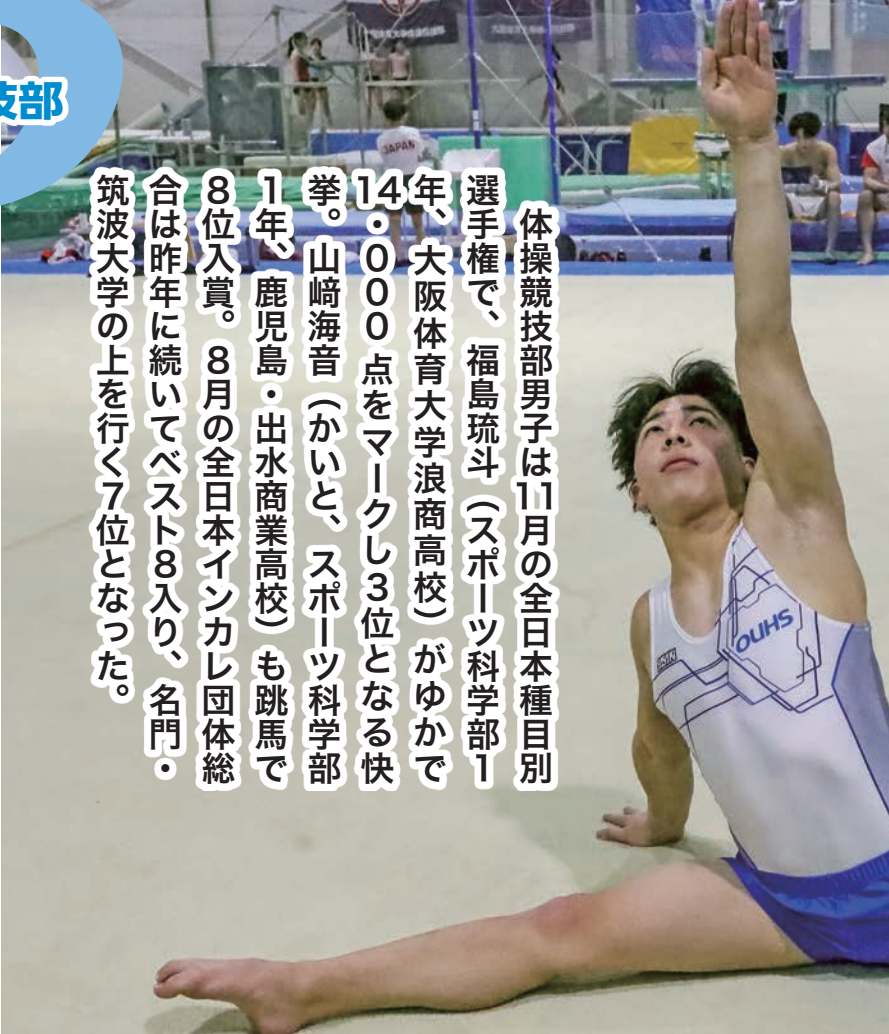


横井光治監督(体育4年、福井工業大学附属福井)



横井光治監督(体育4年、福井工業大学附属福井)

福島快拳 全日本(ゆ)3位



福島快拳(体育4年、福井工業大学附属福井)

体操競技部

体操競技部男子は11月の全日本種目別選手権で、福島琉斗(スポーツ科学部1年、大阪体育大学浪商高校)がゆかで14,000点をマークし3位となる快挙。山崎海音(かいと、スポーツ科学部1年、鹿児島・出水商業高校)も跳馬で8位入賞。8月の全日本インカレ団体総合は昨年に続いてベスト8入り、名門・筑波大学の上を行く7位となった。

全日本学生体操競技選手権大会



全日本学生体操競技選手権大会の様子

男子 2024年からのルール改正で、着地がより重視されるようになったことが追い風になったという。福島は丁寧な演技で着地が安定し、種目と選んで着地が多いうえ、一つ一つの着地を丁寧に決めた。藤原敏行監督は「日本のトップという素質は結果、ゆかを自分の武器にするまでに、6種目すべてで高いレベルを持つオリンピックランダーとして成長してほしい」と期待する。



全日本学生体操競技選手権大会の様子

無念の降格 1年で1部復帰目指す

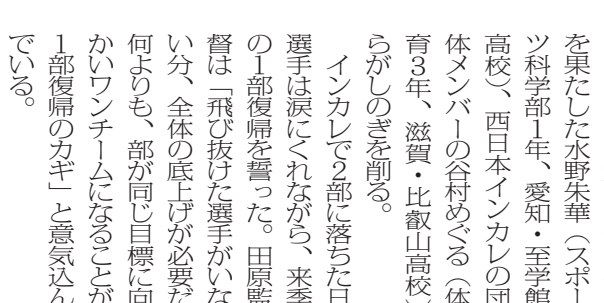


水野朱華(水野朱華)

体操競技部女子は春の関西学生選手権で団体総合2連覇、西日本学生選手権で僅差の2位と順調だったが、8月の全日本インカレは昨年の6位から10位に順位を下げ、2021年以来となる2部に降格。田原宏晃監督は「インカレは厳しい試合になったが、1年で1部復帰を目指す」と話す。



水野朱華(水野朱華)



水野朱華(水野朱華)









ラグビー部

## 五度目の正直ならず 「ゴール前の精度」 どう高めるか



羽田信(体育4年、京都大学)



関西大学ラグビーリーグ入替戦が12月、京都市・宝が池球技場で行われ、Bリーグ2位のラグビー部はAリーグ7位の立命館大学に21-57(前半7-31)で敗れた。入替戦は5連敗となり、2019年以来7年ぶりとなる来季のAリーグ昇格は果たせなかった。

Bリーグでは、1次Bリーグは5戦全勝で1位、順位決定トーナメント決勝で龍谷大学に17-20で敗れた。入替戦は立命館大学と連続トライを許すなど前半で31と大差がつく。中盤の地域で反則を犯し、ペナルティタッチキックで自陣ゴール前に迫られた。

羽田信(けんしん) 主将(体育4年、京都大学)は、西大をリード後半、ラス

### 関西大学ラグビーリーグ入替戦



田中誠(体育3年、大阪・常翔園)

関西大学ラグビーリーグ入替戦が12月、京都市・宝が池球技場で行われ、Bリーグ2位のラグビー部はAリーグ7位の立命館大学に21-57(前半7-31)で敗れた。入替戦は5連敗となり、2019年以来7年ぶりとなる来季のAリーグ昇格は果たせなかった。

高校は記者会見で「A、Bの差は何かと問われ、ゴール前の精度」と答えた。相手は22ポイントに入れたと、ほぼスコアを許した。自分たちは攻め込んでもトライを取り切れず、ターンオーバーされた」と悔やんだ。

ラグビー部は024年の入替戦で、前半で10と関西大学をリード後半、ラス



## 入替戦制し、涙の1部復帰

女子 テニス部女子は9月の関西大学対抗リーグ2部で全勝優勝し、入替戦で園田学園大学に3-2で勝利。悲願の1部リーグ復帰を果たした。

入替戦はコートで行われた。まずアサヒの岡村凛那(りんな)が、スポーツ科学部2年、鹿児島・鳳凰高校・瀬戸(同・宮崎日本大学高校)組、川西由芽(体育4年、大阪・浪速高校)・紀之定寿佳(こたか)が、スポーツ科学部2年、愛媛・済美高校)組が勝ち、2-0でリードした。

続くシングルス試合。優勢かと思われた岡村は打球が走らず、4-6、4-6で敗れた。瀬戸も第1、第2セットともセットポイントまで行って成長の跡を感じさせたが、5-7、6-7で敗れた。試合は2-2で同点。勝負の行方は3人目以降に託された。紀之定がグレスリンに攻めて第1セットを6-0に

第2セットは序盤のリードを追いかけたが、7-5で振り切り、涙の1部復帰となった。

岡村監督は主力となつた下級生の健闘以上に、1部復帰を期して4年生を軸に体となったチーム力を挙げ、4年生は控えて回つてもうひとつ、主将、副主将を中心にチームの理念である自立・自律したアスリートであるかというのを日々部員に問いかけた。

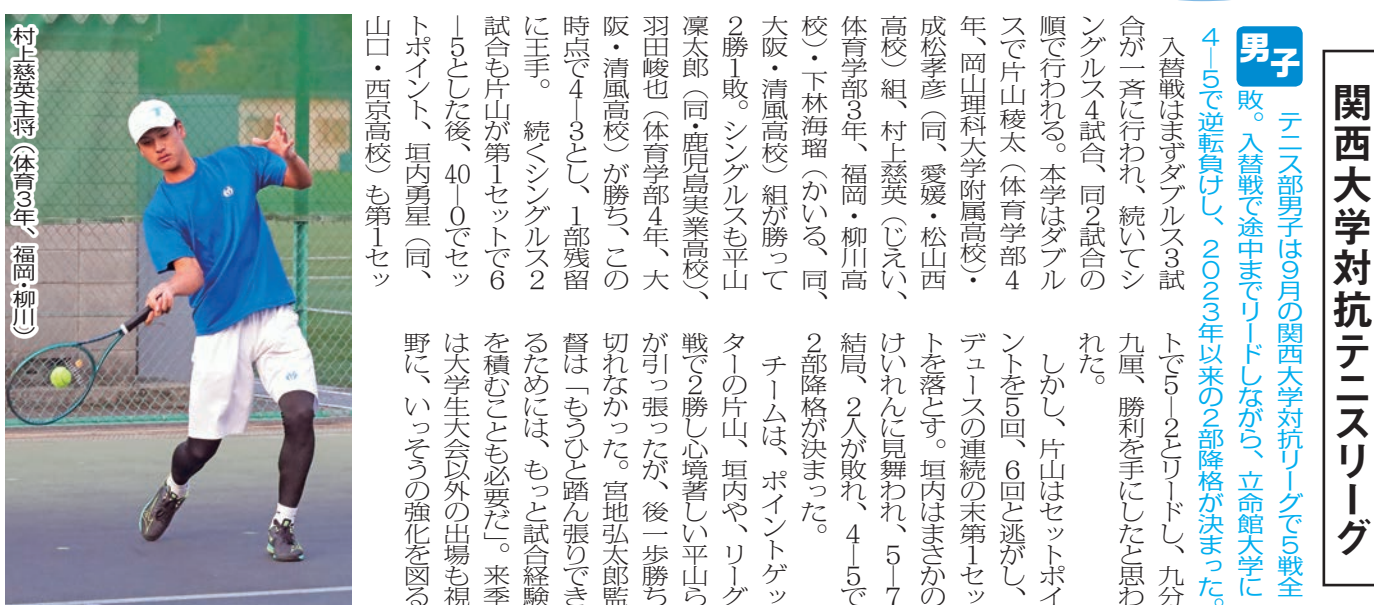
今季の戦力があつた昨季は、入替戦で屈した園田学園大のチーム力を痛感した。その反省を、1年かけてチームビルディングに打ち込み、一体感が生まれた。

来季の目標は、全日本大学対抗主決定試合の出場。そのために1部リーグ2位以内が必須。岡村監督は「1部に上がれば良かったら、このままではダメだ」という意識が部員に定着している。そこを期待している」と話している。

### 関西大学対抗テニスリーグ

## 無念の2部降格、来季こそ

テニス部



村上崇(体育3年、福岡・柳川)

男子 テニス部男子は9月の関西大学対抗リーグで5戦全敗。入替戦で途中までリードしながら、立命館大学に4-5で逆転負け。2023年以降の2部降格が決まった。入替戦はまずダブルス3試合が行われ、続いてシングルス4試合。本学はダブルスで片山稜太(体育4年、岡山理科大学附属高校)・成松孝彦(同、愛媛・松山西高校)組、村上崇(じゅん)・体育3年、福岡・柳川高校)・下海海(かい)組、同、大阪・清風高校)組が勝つて2勝1敗、シングルスも片山・瀬太郎(同、鹿児島実業高校)・羽田峻也(体育4年、大阪・清風高校)が勝ち、この時点で4-3とし、1部残留に手。続くシングルス2試合も片山が第1セットで6-1、村上が4-0でセットポイント、堀内勇星(同、山口・西京高校)も第1セ

しかし、片山はセットポイントを5回、6回と逃がし、デュースの連発で第1セットを落とす。堀内はまさかのけんけんに見舞われ、5-7。結局、2人が敗れ、4-5で2部降格が決まった。

チームは、ポイントゲッターの片山、堀内やリーグ戦で勝利し心算がよい平山が引退したが、後一歩勝ち切れなかった。高田弘太郎監督は「もうひと踏ん張りが必要。来季は大会以外の出場も視野に、いっその強化を図る」

### 関西大学対抗テニスリーグ



第37回 AJDF 創作コンクール部門特別賞受賞作品「三角思考 Lab」荒智太郎(体育4年、兵庫・芦屋学園)と武藤光由(体育3年、愛知・光ヶ丘女子)



アーティストック・ムーブメント・イン・トヤマで特別賞「23時56分の自問自答」で演じる田中結



「いまを生きてゆく」でサッカー部も共演

ダンス部の第50回記念公演が10月24、25日、大阪府高石市のアプラたかし(たかし市民文化会館)で開催された。

今年度、節目となる第50回を迎えた単独公演は、例年以上に豪華で充実した内容となった。白井麻子部員は、昨年度の単独公演終了直後から企画をスタートし、記念公演に花を添えるため、ダンス部卒業生をはじめ、卒業生が率いるチーム、関西学生舞踊連盟の仲間、さくらダンス部が指導するグループなどに出演を依頼した。卒業生は全国各地から集まり、仕事や家事・育児の合間を縫って練習に励み、本番に臨む方も多くいた。

本公演のテーマ「Tracing Journey」は50回にわたる歴史をたどり、その影響を受けながら変化し続ける「旅」を表現したもの。全15作品、総勢162名の出演者による多彩なステージを通して、観客とともにその旅路を体感する公演となった。

田中結(ゆい)さん(体育4年、大阪・樟蔭高校)が俳優・流れ、これまでのダンス部の軌跡や歴史を表現しつつ学生・コーチ・卒業生が力を合わせ完成した作品が披露された。



ダンス部の第50回記念公演が10月24、25日、大阪府高石市のアプラたかし(たかし市民文化会館)で開催された。



第50回記念公演 Tracing Journey

ダンス部



高瀬風(体育3年、福岡・鯖江)



折本新(体育3年、新潟青陵)



神山美完(体育3年、愛媛・北条)

## 現メンバーで さらなる高みを

なぎなた部は8月の全日本インカレ団体で3位。前年の1回戦敗退から巻き返し、天川彰子監督は「1年生が4人入部して団体戦の実戦を想定した練習に取り組めたこと、部員の士気が上がった」と振り返った。

団体戦は、今季、けがから復調した神山美完(こうやま・みく)が、体育3年、愛媛・北条高校)が積極的な攻撃で相手しきを与えずチームをけん引した。近畿勢との対戦が多く、相手をよく知った試合運びができたことも大きかった。

個人試合も、男子の折本新(しん)も、あたら、体育3年、新潟青陵高校)以下現メンバー、体育3年、新潟青陵高校)が3位。インカレの大会副委員長を務める高校などからある程度の入部が見込めるという。天川監督は「これまで以上に充実した練習ができる。団体、演技とも優勝を狙う」と意気込んでいる。

元々4年生不在のため、来季も高瀬風(はるか)主将(体育3年、福岡・鯖江高校)以下現メンバー、体育3年、新潟青陵高校)が3位。インカレの大会副委員長を務める高校などからある程度の入部が見込めるという。天川監督は「これまで以上に充実した練習ができる。団体、演技とも優勝を狙う」と意気込んでいる。

なぎなた部



全日本大学女子サッカー選手権大会



清悠香（体育4年、徳島・鳴門渦潮）



北原瑛奈（体育4年、山梨・日本航空）

サッカー部

# 早大の壁破り8強 泥臭く守るサッカー浸透

サッカー部女子は12月の全日本インカレ2回戦で、2年連続で敗れている早稲田大学を0-0、PK4-3で降し、ベスト8に進出した。

**女子** 関西第4代表の本学は、1回戦で新潟医療福祉大学（北信越第1代表）と対戦。前半15分、林寿珠里（すずり、スポーツ科学部2年、大阪桐蔭高校）がゴールを決めて1-0で勝利した。早稲田大学（関東第5代表）には、2年連続して2回戦で敗れた。昨年は1-1で

迎えた後半、個人技で強烈なロングシュートを本決めされた。相手の攻撃力をいかに封じることが、選手指導者で話し合っていた。試合では、後半とも石居寛子監督が相手の力を吸収して守備を固めた。準備した通り、前線からしっかりと守備ができ、後ろが機能したと振り返る守

備で、早大を無失点に封じる。0-0で迎えたPK戦で、G

K相谷亜由花（あいたに、あゆか、体育学部3年、大阪桐蔭高校）が1人目のシュートを左に跳んで弾き飛ばし、5人目のMF北原歩奈（あゆな、体育学部3年、山梨・日本航空高校）がゴールを決めてPK4-3で勝利。相谷は「組み合わせが決まってきた。目標は日本一だが、この日のために努力してきた」と感無量だった。

準々決勝では、東京国際大

学（関東第4代表）に0-2で敗れたが、シニアを通して、泥臭く守る本学のサッカーを徹底した。関西学生春季リーグはリーグ最下位の優勝。秋季リーグは得点力不足で4位となったが、失点は春をしのぐリーグ最下位の2点。石居監督は「今季は、堅守をしなからんことを取り戻すことにトライした年だったが、そこはやり切った感がある」と振り返った。

（大阪桐蔭）

（相谷亜由花）

（三島典征）



長野大河（体育4年、鳥根・立正大学松南）



三島典征（スポーツ科学4年、立正大学松南）



佐野竜貴（体育4年、広島県立内）

サッカー部男子は全日本インカレで2年連続してベスト8に進出した。予選ラウンド（ブレイオフ）で前回準優勝の新潟医療福祉大学に勝利、決勝ラウンドでも関西学生リーグ覇者の関西学院大学を降して11位通過するなど、鮮烈な印象を残した。

**男子** 新潟医療福祉大学（北信越地区第1代表）とのブレイオフは、0-0のまま延長戦に突入。決着がつかず、勝利はPK戦に委ねられた。GK長野大河（体育学部4年、立正大学松南高校）が相手5人目のシュートを見事にセーブし、PK5-4で勝利をつかみ取った。決勝ラウンド第1節は高松大学（四国地区代表）と0-0で引き分け。続く第2節の仙台大学（東北地区第1代表）戦では、MF野口楓真（ふうま、体育学部4年、静岡・藤枝明誠高校）の先制点を皮切りにゴールを重ね、6-0

の大勝を収めた。第3節の関西学院大学（関西地区第1代表）戦では、前半MF高典征（てんせい、スポーツ科学部1年、立正大学松南高校）が決勝ゴールを挙げ、1-0で勝利した。

準々決勝では、今大会優勝校の筑波大学と対戦。前半0-0で折り返したが、後半39分に先制点を挙げ、0-1で惜くも敗退となった。

サッカー部男子は部員20人を擁する大所帯で、A、B、Cの3チーム体制を敷いている。

松尾元太監督は「今は試合に出ていなくても、将来が楽しみな選手が多い。一人ひとりの成長を積み重ねながら、大阪体育大学サッカー部全体で、これからも最高の結果を目指していきたい」と、チーム全体に強い期待を込めている。

（三島典征）

（三島典征）

（三島典征）

# 2年連続ベスト8 チーム挙げて協同、育成で好循環

全日本大学サッカー選手権大会



三島典征（スポーツ科学4年、立正大学松南）

# 坂ちはるが日本選手権 日本陸連新人賞に



**日本陸上競技選手権大会** 陸上競技の国内最高峰、日本陸上競技選手権大会が7月、東京・国立競技場で行われ、女子砲丸投げで前年8位の坂ちはる（スポーツ科学部1年、大阪体育大学浪商高校）が15歳76の自己新記録をマークして優勝。日本陸上競技連盟選出の新人賞を受賞した。



国立競技場のメインスポンサー表彰が授けられた

坂は9月のU20東アジア陸上競技選手権大会（香港）で、15歳25をマークして銀メダルを獲得した。坂は11月に国立競技場で行われた日本陸上アスレティクス・アワードの場で表彰された。

「来季は日本選手権連覇を目指す。1年生の今季よりもっと海外の試合に出場できるようにトップ選手に近づいていきたい」と話している。